

体育会ソフトテニス部

現在の部員数は医・歯学部のある霞キャンパス生を含め男子が18人、女子が7人。「ソフトテニスを楽しみながら成長を重ね、試合での勝利を目指す」をモットーに、週6日、男女一緒に練習に励んでいる。
(日川)



体育会ソフトテニス部

戦術研究し強豪に挑む



練習に励むメンバー

創部は昭和24年。積み上げてきた部の伝統に、輝かしい1ページが加わった。5月に行われた中国学生リーグ戦で、男子が団体1部北九州市で行われた全日本大学王座決定戦に出場したからだ。

中国学生リーグでは、岡山大、鳥取大、山口大、福山平成大、吉備国際大と戦った。各大学とダブルス3試合、シングルス2試合を戦い、勝ち越しを目指した。福山平成大には2勝3敗で敗れたが、他の4大学には全て勝ち越し、中国地区ナンバーワンに輝いた。ダブルスの難波拓夢副主将(教育学部3年)・岡田朋樹さん(経済学部2年)ペアと、シングルの眞玉・成主将(理学部3年)は、負け知らずの5戦全勝だった。



3年生の幹部が組み立てたメニューで練習

念願の全日本大学王座決定戦に出場

難波副主将の「王座決定戦への出場は大きな目標だったので、うれしかった」の言葉が選手の気持ちを代弁する。一方で女子は、中国学生リーグ戦の1部団体で4位に終わった。

部員の大半は経験者だが、中・高校時代に全国大会で実績を残した選手は少ない。このため、「技術で劣るところは、戦術でカバーしよう」と、練習試合などで対戦相手の癖などを覚え、戦術を組み立てた上で試合に臨んでいる。中国学生リーグでは、男子で(広大流)の取り組みが奏功した形となった。練習メニューは、毎年3年生の幹部が話し合って組み立てる。本音で議論しながら、チーム作りを進めていく。週4日は合同練習で、週2日は前衛、後衛に分かれたの特別練習に充てる。土・日曜日は実戦形式の校内戦に時間を割く。学生の自主性が求められる分、学年の枠を越えて、練習で気付いたことは何でも言い合える。霧田気が部を支える源になっている。

に終わった。ただ、女子主将の片平あゆ葉さん(総合科学部3年)は「男子と一緒に汗を流しているのが、男子の優勝は涙が出るくらいうれしかった」と目を細める。

全国へのひのき舞台への出場と合わせ、部員数を増やすことも部の目標の一つ。眞玉主将や岡田さんは「ソフトテニスは頭を使う心理戦のスポーツ。駆け引きがうまくいけば、どんなに強い相手でも勝てるのがソフトテニスの魅力と口をそろえる。」



気付いたことは学年の枠を越えて言い合う